

WEST LIFE

校長の目

令和7年4月28日(月)

50th
ANNIVERSARY



本校では、8：30～8：35の間に朝読書を行っています。難しい約束事は特にありません。漫画や雑誌以外なら何でもよく、自分の好きな本を持ち込んで読むという取り組みです。たった5分間という短い時間でも、様々な効果が見られます。静かな雰囲気が始まることから、生徒の気持ちが落ち着く、遅刻が減少する、学習への集中力が高まる等です。また、「もう少し読みたい」と生徒が思うくらいの時間が理想的です。それがきっかけで読書好きになったり、継続することで読解力がついたりして、学力向上の一助にもなります。



3年生の家庭科では、幼児の生活と家族について考える授業があります。本時は、「幼児の体の発達の特徴を知り、できることを考えよう」という目標で学習を進めました。班ごとにちょっとした体験を交えながら学びますが、その一つに乳児の人形を抱くという活動がありました。重さも大きさも乳児そのもので、特に首がまったくすわっていないのがリアルです。生徒たちは、おっかなびっくりで人形を抱きかかえますが、危なっかしくて見ていられません。私も抱かせてもらいました。生徒たちは、「校長先生、上手!!」と褒めてくれました。二人の子供を育ててきたのですから当然でしょう？（笑）人形を抱きかかえると、昔のことが一瞬で思い出され、懐かしさがこみ上げてきました。



1年生の体育は、ハードル走でした。ハードル走は、インターバルのリズミカルな動きと滑らかなハードリングを追求することで巧緻性やバランス感覚を高めたり、それによってスピード感と爽快感を味わったりすることができる運動です。一方で、ハードルに接触することで転倒の怖さもある運動です。特に、後者については、恐怖感が体を委縮させ、動きがぎくしゃくし、ハードルの手前でスピードが落ちてしまうので、本来の楽しさを味わえないことにつながってしまいます。本校では、生徒の恐怖感を払拭し、思い切り体を動かせるよう、フレキハードルという道具を取り入れています。これは、ハードルバーの真ん中が割れており、また柔らかな素材でできているもので、接触しても痛さが無く、ハードルが倒れることもありません。これにより、生徒は思い切り走ることができます。本時は、自分に合ったインターバルを見つける授業でした。生徒は、異なったインターバルのハードル走を試走し、リズムよくハードリングできる距離を見つけました。

